技術の伝承を途絶えさせぬため

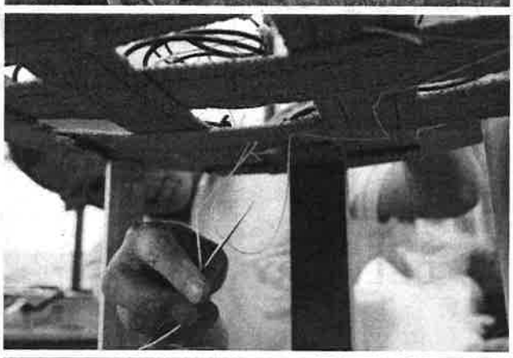
ダニエル「洋家具の椅子張り技術書」完成

「洋家具の椅子張り技術書」（椅子張り技術編）

横浜クラシック家具の伝統を引き継ぐ、ダニエル（横浜市中区、高橋保一社長）はこのほど、同社技術陣が監修した翻訳書、「洋家具の椅子張り技術書」（椅子張り技術編）を完成させた。同書は、日本で初となる英国本流の完全技術書であり、豊富なイラストや図が挿入された406ページの大作だ。現在のところ販売予定はない。

製作におよそ5年を費やした同書について、高橋保一社長は「想像以上に翻訳に手間取った」と苦労を語る。翻訳は専門家に依頼したが、専門用語が多い技術書のため、「ただ翻訳されただけでは、日本語ではあるが、中身が全く分からない状態だった」（高橋社長）という。そのため、同社技術陣営が隅々まで監修し、一語一語を分かりやすくかみ砕きながら言葉を紡ぐことで、日本語を理解する者なら読み込むことで誰もが理解することができる技術書が完成した。

また、制作意図については、「我々の技術の伝承が途絶えてしまうのではないかという危惧が常々ある。職人特有の技術を『見て盗む』といったことがなかなか通用しなくなったと痛感している。『昔は良かった』などと悠長に嘆いていては、いずれ技術は廃れてしまう。そこで、技術を残すためには本として残すことが最善と考えた。我々が造る横浜クラシック家具のルーツは英国にあり、日本語で書かれた技術書がなかった。技術は職人にしか宿っておらず、日本語の本にもなってなければ、当然インターネットにもない。ないものは作るしかない」と語る。



㊤㊥㊦職人が技術を駆使し一つひとつ手造りしているので大量生産ができない

苦労の末、完成した同書だが、「例えばイラストを写真に変えるなど、より読みやすくするための改良の余地はまだまだある」（同氏）とし、改訂版も視野に入れている。

今後は、同書を第一章とし、「第二章 箱物編」、「第三章 木部塗装技術編」、「第四章 販売技術編」の制作構想があるという。同書を販売する予定は今のところないが、「国会図書館には寄贈したい」（同氏）という。

技術の伝承に関しては、同書制作以前から「家具の学校」を通して注力している。2003年創立の家具の学校は、職人を目指す若者から、デザイナー志望者や、リタイヤした中高年層までが学んでいる。同社が持つビジネス環境と工場を活用したカリキュラムが充実しており、卒業生の中には同社で職人として働いている者もいる。

また、思い入れのある家具の修理・張替えを行う「家具の病院」は、1998年以来、好評を博しており、受注は毎年伸びている。「家具の病院では自社製品のみならず、他社製品の修理も受け付けており、最近は非常に修理依頼が多い」（同氏）という。例えば、椅子張りの部署では、機械ではなく、職人一人ひとりが木のフレームに、工具を使って布を張っていく。

最後に高橋社長は同社家具について、「ダニエルの家具は壊れても修理できる。職人が技術を活かして手造りしているので大量生産ができないため、最初は高いと思うかもしれない。しかし長い目でみれば、結局は適正な価格であることが、長い年月を経て分かってもらえるはず」と語る。